

作品にどんどんさわってください。
手で触って鑑賞するギャラリーが登場！



元幼稚園の教室を利用した開放的なギャラリー空間



持つとまったく重さが違うガラスの玉

東京都新宿区四谷の「CCAAアートプラザ」に視覚障害者であっても、さわることで彫刻などを楽しむことができるギャラリーができた。ここでは文字通り立体作品を手でさわって鑑賞することができる。視覚障害者だけではなく、健常者でも利用ができるのだが、今までとはまったく異なる新しい感覚の美術鑑賞に注目が集まっている。

見るとさわるとでは、作品の印象がまったく変わる。

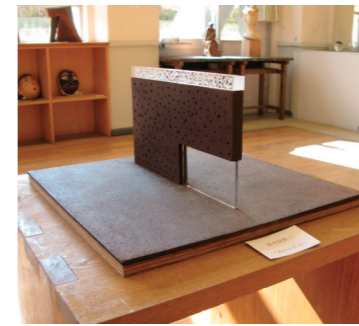
衝撃的な感触だった。見た目にはほとんど同じように見える2つのガラスの玉の作品が展示されていた。しかし片方は中空構造で、もう片方はガラスが詰まっている。手に持ってみれば、まず重さがまったく違う。そして同じガラスとはいえ、質感が違う。あたたかさや冷たさも違う。百聞は一見にしかずと言うが、何度見たとしても、実際に

さわったときのイメージは想像しにくいだろう。

四谷の「CCAAアートプラザ」の常設展は、手でさわって立体作品を鑑賞するギャラリーだ。主催しているのはNPO法人 市民の芸術活動推進委員会である。

理事長の鈴石弘之さんはその狙いを次のように語る。「私たちは市民の誰もが芸術文化を享受できることを目的として活動していますが、現在の日本には視覚障害者のための設備がありません。このギャラリーによって、障害のある無しにかかわらず、作者と同じように作品をさわって鑑賞することができるようになりました」

この意図に賛同して集まった作品は30点ほど。海老塚耕一氏をはじめ、東京藝術大学の教授や著名な芸術家が作品を提供してくれた。さわるということを考えてか、実にいろいろな素材の作品がある。ガラス、鉄、木、アクリル、毛糸…。見ていても面白いがさわると本当に面白い。



素材はさまざまで、どれも手でさわるとまったく違う作品に感じる



展示してあるお面を破る子どもたち

心にゆとりのある人間を育てるには芸術とのかかわりは欠かせない。

実際に入口で来場者を観察してみるとギャラリーを訪れた視覚障害の子どもたちは興味津々にさわっていた。当然ながら、見た目よりもさわった感じが優先になる。色合いや形状が面白くて見入ってしまうような作品でも、触感がよくないと敬遠される。ちょっと痛いような感触のものも同様だ。作品の中に鳥のような形状をした作品があった。なめらかな曲面でずっとさわっていたくなるような感覚である。そういう作品に人気が集まるという。

「CCAAアートプラザ」は、以前の区立四谷第四小学校と幼稚園が利用していた施設だ。そのために天井も低く、おしゃれとは言えないが、その分あたたかくて、なつかしい香りがする。そんな中での美術鑑賞はじわっと心に染みていくような気持ちにさえなった。

鈴石さんも昔は、その小学校の図工の先生をしていた。

担当者より



視覚障害があっても芸術に触れられる空間ができました。

NPO法人
市民の芸術活動推進委員会
理事長
鈴石弘之さん

私たちの活動は始まったばかりですが、オール市民を対象として気軽に芸術に親しんでいただくための取り組みを次々に行っていきたいと考えています。そうした環境が今の病んだ日本には必要です。規模は小さくとも大きな夢を抱いています。今回の助成によって、日本で唯一の手で見るギャラリーを作ることができました。今後、この場所を利用する多くの皆さんを代表して厚く御礼申し上げます。



鳥をモチーフとした手の感触が楽しめる作品

その経験から

「小さいうちから美術や芸術に親しむということは本当に重要なことです。情操教育的にもそうですし、今後なにかあったとき芸術に癒やされることもあるでしょう。心にゆとりのある人間を育てる意味で欠かせないものなのです」と語る。

まだ開設されたばかりで認知度が低いので、今後は関連団体などにも呼びかけて、来場者も増やしていく考えだ。この常設展は木曜日を除いて運営している。視覚障害者の方が来場する際には説明員がついてくれる。また「手で見るギャラリー」以外にも展示室が3室あり、いずれも入場無料となっている。近くに行った時にはぜひご来場いただきたいということだった。